

令和2年度第1回釜石市社会福祉審議会開催結果

1. 開催日時
令和3年1月29日（金） 13:30～15:00
2. 場 所
釜石市保健福祉センター 9階 研修ホール
3. 出席委員 8名
小澤慶一委員、柁本貴徳委員、長野弘元委員、福成菜穂子委員、丸木久忠委員、藤澤静子委員、伊藤悦子委員、長谷川忠久委員
4. 欠席委員 3名
櫻井京子委員、猪又信幸委員、遠藤昭子委員
5. 事務局
水野保健福祉部長、村上地域福祉課長、小笠原地域福祉係長、及川主事補
6. 傍聴者
なし

7. 審議内容

(1) 開会

【事務局 小笠原】

本日の出席委員は11名中8名であり、過半数に達しているため、釜石市社会福祉審議会審議会条例第6条第2項の規定により、会議が成立していることを報告する。欠席委員は櫻井京子委員、猪又信幸委員、遠藤昭子委員の3名である。会議は、市の審議会等の会議の公開に関する指針に基づいて公開することとしている。

(2) 部長挨拶（市長所用のため欠席）

【保健福祉部長 水野】

保健福祉部長の水野です。よろしく申し上げます。

本日は、釜石市地域福祉計画について、委員の皆さまから忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

《出席委員紹介》

《市出席者紹介》

(3) 議題

①会長及び副会長の互選について

【事務局 小笠原】

釜石市社会福祉審議会審議会条例第5条第1項の規定により、選出を行う。選出

の方法については皆様にお諮りする。

【藤澤委員】

事務局に一任する

【事務局 小笠原】

会長に丸木久忠委員、副会長に藤澤静子委員をお願いしたい

【全委員】

異議なし・拍手

②釜石市地域福祉計画（案）について

【丸木議長】

委員の皆様からは忌憚のない意見を頂戴したい。では早速、釜石市地域福祉計画（案）について事務局から説明をお願いする。

【地域福祉課長 村上】

《計画案の概要について説明》

【丸木議長】

内容については、各委員が前もって読んできている前提で進めさせていただく。

事務局の説明に対して、質問・意見をお伺いする。

教育部門からは、いかがか。説明でもあったように、この計画を推進するためには、福祉部門だけではなく他部門との連携が必要不可欠になるが。

【福成委員】

現在、第6次釜石市総合計画の策定中だと思いますが、福祉でも今回、市民に分かりやすく行動できるものを策定していて、良いと思う。令和7年度までの5カ年の計画として策定されるわけだが、目標に対してどうだったかの検証を途中で行わなければならない。5年後の検証というわけにはいかない。経過・取り組み状況を皆さんで考えたり、話したりする機会を作っていただきたい。

若者支援という部分は福祉の分野では非常に大きな事だ。釜石市では、年間150人くらいしか子供が生まれない。なぜ、生めないかということ、若者たちの生活基盤が安定しないからである。2人で働いて、1人前の収入なのに、出産することになると収入減となり、なかなか踏み切れない現実がある。現在は、地域、主に父母など家族が支援して、なんとか出産している状況。出産場所についても、医療機関の関係もあって、大船渡や宮古で出産している。釜石は、子どもが生めない街になってきている不安があり、福祉関係の事柄を目の当たりにすると非常に考えさせられる。

【丸木議長】

令和7年度までの計画における、途中でのチェックをどうするのかとの質問だが、事務局の見解は。

【地域福祉課長 村上】

計画5年間のうち、情勢も色々変わると思いますし、この計画を地域に落とし込んでいく中で、内容が違っている場合等もありますので、検証することは必要と考えている。庁内においては、この計画を推進するための連絡会等を設置する予定としておりますし、住民の皆さまから意見をいただく場についても設置に向けて検討していきたいと思っています。

【丸木議長】

ここに県から小澤委員が出席されているが、ちょうどこの間、県の総合計画の策

定1年目の進捗状況を報告する機会があったが、同様に1年ごとに進捗状況を把握・検証する方向性は、市では考えていないのか。

【地域福祉課長 村上】

市の総合計画の実施計画が3年ごとに見直されるため、それに併せるのが良いのではないかと考えている。

【丸木議長】

民生児童委員の伊藤委員は、地域を一番身近に感じている方かと思いますが、ご意見いただけますか。

【伊藤委員】

地域で活動しているといろいろと壁にぶつかることが多い。そのたびに生活応援センターに助けられている。

また、地域で活動する上で町内会との結びつきが大切だが、先ほどから言われているとおり、町内会の高齢化が著しく、連携することが難しくなってくる。

安否確認については、老人宅は比較的入りやすいが、子どもの虐待は発見が難しい。泣き声が聞こえるからといって虐待とは限らない。学校と情報交換しながら進めている。

サロン活動については、毎回同じ人しか参加しない。特に一人暮らしの男性が参加しない。どうしたら交流の場に引っ張れるか悩んでいる。

避難行動要支援者対策については、申し込み制で個人情報を開示することを条件に避難行動を支援しますという制度です。社協から年に数回名簿が提示されるのですが、提示されてところで民生委員としてどうすることもできない歯がゆさがある。全市的に個別計画が進んでいただくと良いのですが。

地域の担い手ということと言うと民生児童委員も高齢化がすすんでおり、みんないつまで活動できるか。そういう状況です。

【丸木議長】

事務局から説明がありましたが、課題の整理の所で関係者間の連携不足があげられている。民生委員が最前線で困っているところを関係者の連携を強化することで補い合っていく、そういう計画ですから。地域の担い手はどんどん高齢化していくわけで、新たに若い世代を取り込んでいかないと担い手はいなくなる。子供のころからの教育というかそういうところが必要と考えれば、福祉分野だけでなく教育など他の分野と情報交換しながら考えていかなければならない。

【伊藤委員】

民生委員は、対象者と行政のパイプ役であるということを明確にしないとどんどん手がなくなる。民生委員はあくまで繋ぐ役割であって、なんでも解決しなければと重荷になっている人もいる。

【丸木議長】

若い方々が学校において福祉教育がなされていて、大人になって民生委員になるとか地域の為に何かやりたいと震災以降の報道等でよく見かける。防災教育からの福祉教育へのつながりはあると思います。長谷川委員何かありませんか。

【長谷川委員】

この地域福祉計画に抜けているものが2つある。1つは、時代認識。もう1つは、支援する側と支援される側のあり方。

障がい者を例にすると、日本全国で虐待が蔓延しているなかで、なぜ障がい者のみを法律で守ろうとするのか。一般の国民を守らなくて良いのか。釜石には、よく

大学の先生が議論を深めるために来るんですが、その中で、今、支援を受ける立場、受け手が何をすればよいのかを議論しないと終わらないと伝えている。

地域社会の中で障がい者が生きていくにあたり、障がい者の皆さんに30年も前からお伝えしているのが、障がい者もボランティアになりなさいということ。ボランティアの支援を受けるばかりではなく、自分たちが地域の中で出来る事をボランティアしなさいと障がい者が集まるところで話をしている。果たして障がい者がどうあるべきかという問題について、地域福祉計画の中でどう取り上げていくのか。

日本は、虐待社会ですよ。障がい者ばかりが虐待を受けているわけではない。子供だって虐待を受けているんです。そして、母親が虐待している。そんなおかしな社会の中で、なぜ障がい者だけが虐待から免れるのか。出来ないことは出来ないで良いんですか、支援を受けるだけで良いんですか、そんなところを計画に反映できれば。

それ以外は、非常に良いですよ。女性お二方で作られた非常にきめ細やかな計画だと思います。

【丸木議長】

受け手と支援する側、時代認識をはき違えるとうまく廻らないのではというお話でした。

では、生活安全課長いかがですか。

【柁本委員】

私の部署は、警察の中では、一番福祉に近いのかなと思っていますけれども。市民から様々な相談を受けるわけなんです。生活応援センターには非常にお世話になっている。極端な話をすれば通報の半分以上は、認知症的な案件。例えば仏壇のお菓子がなくなったとか誰かが来て米を持って行くとかありますけど、じゃあすべての通報から被害届を取るのか。そんな時に生活応援センターに相談して対応してもらっている。生活応援センターは、隅々まで把握されている。非常に助かっている。

計画については、警察として関わる部分は、基本目標の6とか7となるわけですが、虐待やDV、犯罪被害だけではすまないわけで、背景には障がいや認知症などまさに福祉の分野を横断的に捉えている総合計画的な計画となっている。警察としても、今後とも生活応援センターや福祉部門の皆様と横断的に連携を取っていきたいと思っています。

【丸木議長】

市としても関係団体の皆さまからお力添えをいただかなければ。

小澤部長いかがですか。

【小澤委員】

それでは、岩手県のPRをさせていただきます。岩手県では平成31年3月に岩手県地域福祉支援計画を策定しております。この中で県内の市町村の地域福祉計画策定を支援することとしており、今年度で県内33市町村が完成する目標としておりました。まさにこれがその計画で、目標を達成することが出来るかなと思っています。取り組み頂きありがとうございます。

先ほど計画の進捗管理の話が出されましたが、県の地域福祉支援計画では、地域福祉協議会というところで毎年計画について評価してもらっている。その会議資料などもホームページで公開されていて、そこに県として地域福祉推進にどんなことをやってきたかということを示しておりますので、より広く市民の方々にも見て

理解していただけるのではないかと。あくまで一つの手法ですけど。

県では、先ほど申し上げた計画の中で、福祉行政職員の方々の研修会を開催したり、地域福祉推進フォーラムで各市町村の取り組み事例などを発表してもらったりして、他市町村の参考としていただくなど後方支援的なことを行っております。

釜石の計画の中で、非常に良いなと思ったのが基本目標の2に「地域や福祉を我が事に変える意識づくり」で、まったくこれが基本になるのではないかと考えておりました、これを計画に入れたのが非常に良かったと思います。

実は、私小さい頃、白山小学校に通っておりまして、当時、遊ぶ時は学年関係なく幼稚園から小学校6年まで場合によっては中学生まで地域ぐるみで遊んでた。今思えば、ああいうのが地域のまとまりをつくる意識になっていたなど。じゃあなんで、釜石で暮らして子供を育てないかという、就職となると市外に出る人が非常に多い。あるいは県外に出ていく。県としては、岩手で働く、岩手で育てる、岩手で暮らすを「岩手県ふるさと振興総合戦略」の施策推進目標としておりますので、各市町村とも連携を図りながら進めてまいりたいと思います。

【丸木議長】

藤澤委員何かありませんか。

【藤澤委員】

一般の人が障がい者と触れ合う機会がない。私は、活動の中で触れ合うことはよくあって、一緒に歌ったり、踊ったりしている。地域の中にあって、誰が障がい者なのか、一般の人はわからないし、そこまで触れ合う機会はない。施設に行けば別だが、普通はない。地域において、そういう方々と触れ合う場があれば良いと思う。みんな分かり合える。

【長谷川委員】

障がい者の団体は、障がい者の団体を無くするために存在している。そういうのがないのが正常な社会。あること自体がおかしい。しかしながら、今の時代は無ければならない時代。早めにそういうものをなくそうと思っている。

【藤澤委員】

今度、高齢者と学校の世代間交流をしたいと思い一昨年のお正月に餅つきを企画した。学校を通じてチラシをまいてもらおうと思ったが、対応してくれなかった。忙しいからなのだろう。自前でチラシをまいたが、40人くらいの参加があった。若い世代は、幼稚園から高校生までの参加があって非常に良かった。今年は、コロナ禍で開催できなかったが、そういう世代間交流できる機会が少ないと感じる。ちなみに昨年は、機械で餅をついた。

【丸木議長】

先ほどから、福成委員にコメントを求めているのは、こういうこと。地域として様々な活動を行いたいと思っても、教育現場との想いには乖離があり、受け入れられなかったりする。ぜひ教育委員には、地域の声を教育現場に伝えていただけないかと思っている。

【藤澤委員】

子どもたちが参加すれば、親もついてくる。今までは、平日実施していたものを若い人たちが参加しやすいように休日に変更するなどの工夫はしている。地域の人たちと知り合いになろうと思って企画している。

【丸木議長】

県の小澤部長さんがおっしゃってましたが、白山小学校で地域のみんなが集ま

る場所があればということで、まさに藤澤さんの活動がそれにあたる。今回の計画でも織り込み済みであれば、各地域でどう実現していくかです。

【福成委員】

議長のパスにうまく答えられていなかったようで申し訳ない。

生活応援センターについてですが、釜石にしかない独特の社会の中のコミュニティ機関だと思う。8カ所のセンターを利用したり身近に感じたりする事が将来釜石を元気に引っ張っていく大きな要素だと思っている。このセンターをどんどん見えるように前に前に出してほしい。そしてどんどん地域や家族で利用していく。人口が少なくても元気だった良いと思う。

子ども達の話題ということで、防災教育は、釜石の子どもたち本当に素晴らしくて、毎月避難訓練している学校や幼稚園もあります。そんな中で、震災後この10年間で自分たちの体に身についた、学んだ、体験した防災教育は、ものすごく大きく膨らんで育っています。今の中・高校生の防災に対する意識はもの凄くて、自分たちが頑張らなければと思っている。今年大学に行った子供たちは、いつも釜石の事が気になっているから防災教育の勉強に来たと言っついでこの前、話し合う機会を作ることができました。そういうエピソードからも、大きく育っているんだなと感じた。2200人の小中学生がラグビーの会場から全国に向けてコーラスで元気を発信できたのも、地域の為に子どもたちが大きく目を開いて、同じ歌で同じメロディでつながったから。

道徳の時間が今年度から必須になって、昔からあったことなんでしょうけど、頭だけでなく心も育てていかなければならない現状からすれば、釜石の子どもたちは、心豊かに育っているなと感じる。大きな問題もない。

いじめの問題や学校にいけない子どもの問題もありますが、みんなで頑張っているという動きも計画を立てられてありますし、みんなが歩み寄って進まないと同じ方向に歩いていけない。

地域に生活していくには、地域と仲良くならなければと思います。役員に若い人を取り込むのも良いことだと思っています。私は、甲子地区に住んでいますが、300世帯親子3世代で運動会も行っていて、昔の釜石ってこうだったなって場面がいっぱい見られます。でも、震災の後、無くなった町内会がいっぱいあります。生活応援センターには、無くなった町内会への支援を頑張っていたきたいと思います。

最後に、計画の中に市職員の意識や資質の向上が謳ってあります。併せて市民も頑張らなければならぬと改めて思ったところです。

【丸木議長】

最後に長野委員から。

【長野委員】

ハローワークは、仕事を探している人に仕事を紹介するということは、皆さん存じていると思います。内訳で見ますと、55歳以上の高齢者、障がいをお持ちの方、生活保護を受けている方や生活困窮者の方、新規学校卒業者の方など福祉の分野と非常に関連していると思っています。現在、求職者の内3割は高齢者となっています。登録して仕事が見つければ、当然登録から外れるわけですが、高齢者はいつまでも残っているという状況。

障がい者ですと今年はコロナ禍により、求人が昨年より3割少なくなっており、なかなか就職が厳しい状況となっています。事業所の方で見ますと法定雇用

率は、岩手県内で2.28%、遠野・釜石は2.64%となっており、県内でも上位にいます。特徴的なことを言えば、精神障がい者の雇用の割合が高い。他の地域に比べて倍以上の割合で精神障がい者の方々を雇用していただいている状況です。

生活保護の方ですが、これはなかなか難しい状況で、1つ問題提起ではないですが、生活保護の方が本当に仕事を探しているかということです。仕事を紹介しても、なかなか「うん」とは言わない。仕事を探している人が来ているはずなのに、何処も受けようとしません。生活保護受給者によくみられる。

新規学卒者については、管内就職者の割合が昨年よりも多くなっている。人数的には、子どもの数が減少しているもので、昨年に比べて9人少なくなっているものの割合は3.3ポイント増えていた。これは、コロナの関係が大きく影響しており、関東近辺の求人が減っていることに加え、生徒や親御さんが関東方面に行きたくない・就職させたくないという想いがあり、地元企業への就職希望が多かった。

最後に地域福祉計画についてですが、いろいろな課題があり、それに取り組んでいくわけですが、現在のコロナ禍という問題。コロナの中でどのように取り組んでいくか、それ自体が課題。2つの重点施策があつて多くの取り組みが盛り込まれておりますけれども、内容を見ると、市民の側では「積極的な活動や交流への参加」、市や社協では「交流の機会づくり」など、コロナ禍にあつては抵抗される方々もいらっしゃる内容であり、取り組みとしては困難なものもあると思う。

5年計画としては、よろしいのかと思いますけど、コロナ禍ではここまでとか、補足などをすると、より現実に近い計画となるのではないかと。

【丸木議長】

最後に議長なんですけど、委員でもありますので、私から。冊子の64ページをご覧ください。基本目標ごとの主な役割・取り組み内容で地域を構成する人々の定義として5つ定められています。しかし、次のページにどういう役割を担っていくか記載されている所を見ると、「市」と「社協」が同じ枠に入っているわけです。どういう意味合いがあつて5つの定義をそれぞれの区分とせず、市と社協を一緒にして4区分にしたのか、そこらへんを事務局にお話しいただければ。

【地域福祉課長 村上】

確かに市と社協は同じ区分にしてあります。市と社協につきましては、地域福祉を推進する上では、両輪となつて一緒に取り組んでいかなければならないものと考えています。行政としては、社協との連携を強化し、同じ方向性をもって住民や地域に対して接していきたいという考えで同じ欄に記載しました。行政の立場としては、今後とも社協は応援しながらといいますか、お互いに連携を取りながら、やっていきたいと考えております。

【丸木議長】

出来れば、社協が担う役割に対して必要なバックアップを行政がすると一言どこかに付け加えていただければ。

【長谷川委員】

あんまり市に頼ってはだめだ。

私の団体は、市からの助成金はいらないと断った経緯がある。他の福祉団体との整合性があるからぜひと言われた。私は、施設福祉で丸木議長は社会福祉、福祉は大きく分けるとこの2つの福祉になるが、市はどちらもやらなければならない。社協も施設福祉に足を踏み入れてみてはいかがか。福祉は、社会福祉だけでは成り立たないし、施設福祉だけでは成り立たない、お互いに手を取り合つてや

っていかなければならない。市から助成をもらおうと威張られるから、極力もらわない方が良い。

【保健福祉部長 水野】

みんなで連携して取り組んでいきましょう。

バックアップということではなく、連携してやっていきましょう。

【長谷川委員】

いっしょにだね。

社協を地域福祉の中核にとか、社協を指導するとかそういうことでは。

【保健福祉部長 水野】

同じ立場ですから。横並びで連携して。

【丸木議長】

それでは、このあたりで議題の2を終了してよろしいでしょうか。

【全委員】

異議なし

③その他

【丸木議長】

事務局には、本日委員の皆さんから出された意見を計画に取り入れていただければと思います。

次に、議題3「その他」を議題といたします。事務局から何かありませんか。

【事務局 小笠原】

今後のスケジュールですが、この計画ですが、2月1日からパブリックコメントということで市民の皆様から意見を聞くこととしております。本日の審議会は、諮問・答申の通常の審議会ではなく、その前段階として意見をいただく会としております。つきましては、最終的な諮問・答申を行う審議会を3月に行います。その際には、本計画のほかに、障がいの計画、介護の計画、子どもの計画と併せて4本審議していただきますのでよろしくお願いいたします。

【丸木議長】

委員の皆さまからは、何かありませんか。

【全委員】

ありません。

【丸木議長】

特になければ、議題3を終わってもよろしいでしょうか。

【全委員】

異議なし。

【丸木議長】

以上で本日の議題は、全て審議されました。

⑤閉会

【事務局 小笠原】

本日は長時間にわたり審議いただきありがとうございました。

以上をもって令和2年度第1回釜石市社会福祉審議会を終了いたします。本日は、誠にありがとうございました。